

「Kyo から！未来を拓く

～受け継ぎ、創る新たなストーリー～

第 2 分科会

テーマ「子供たちを育む環境づくり 地域社会の現状と次世代を見据えて」

6名のグループ構成でワールドカフェ（意見交換会）を行いました。

私は、「ホスト」役に充てられ、二回の意見交換会を行いました。

初めに、全員で自己紹介を兼ねて、「最近、子供に関することで嬉しかったこと」を話し始めました。

一回目のメンバーは、青森・長野・山口・愛媛から参加された方たちでした。

青森の PTA 会長は、全校生徒 30 名余りの学校。今後の学校の未来を心から心配する思いで、今回の全国大会に参加されたそうです。嬉しかったことは、自分たちが学生の頃は、郷土文化より、ロックや洋楽が流行した世代だったが、我が子は、現在、「郷土芸能部」に所属しており、今年、東京・神楽坂で神楽の演奏・発表することができて、大変感慨深い思いだったと話してくれました。

長野から参加の方は、104 年の伝統ある高校で、全国大会を目指す部活も多く、大会出場時には、地域の方たちからの支援があるそうです。また、そのことで地域の活性化にもつながっているそうで、「我が子を行かせたい高校作り」につながっているとのことのお話を伺いました。

山口は、「コミュニティースクールの山口」と言われていて、全国でもトップを進む、学校・行政・地域で子供育てを行っているそうです。

二回目のメンバーは、奈良・長野から参加の方たちでした。奈良からは、進学校の奈良高校は、いま、全国でも広がる「統廃合問題」に直面している現状を話されていました。また、奈良商業高校の方から、明石家さんまや TOKIO のリーダー・城島茂が出身ということもあって、楽しい話をして下さいました。

1 回目も 2 回目もそれぞれの地域の話盛りだくさんで、なかなかテーマに沿った意見交換会までたどりつかないところがありましたが、お話を聞きながら感じた点をまとめました。

① 地域の子供は、地域の人が守る→少子化が進む現状、地域に通う学校の生徒を地域の大人たちが「我が子同様」に守り、また、見守っていく。守っていくことで、いざ、震災が起きた時に若い力が地域に発揮してくれることを期待する。

② 高校が地域にどれだけ、必要とされているか？「必要とされる学校作りが大切」→「あの高校に通いたい。我が子を通わせたい」と、部活だけではなく、地域の行事に参加することで地域になくてはならない学校作りをしていく。「地域密着型の学校へ」

- ③ 携帯電話の普及で様々な問題が起きているが、根本は「直接会うこと」「携帯電話は、コミュニケーションの道具」→携帯電話の使用は、家族・学校など統一した教育がないまま、様々な社会問題にまで発展するような事柄も起きている状況。しっかり、まず親が我が子の携帯電話事情を把握することが大切。
- ④ 見渡せる→青森の会長から、「都会は、どんどん上に登って行って、何が起きているかわからないという印象がある。青森は、何しても見渡せるから、何やっているかわかってしまう」と。簡単な言葉のようで、とても深い言葉であると感じました。

分科会に充てられた時間は、3時間。「え“～3時間もあるんだ」と、ホスト役にも充てられたこともあり、始まる前、大変に緊張しましたが、他県の方々の話にのめり込む様に話をお聞きし、あっという間の三時間でした。大変に充実した時間。我が南稜高校も「地域になくてはならない高校」になるよう、PTAとしても全力で活動していこうと思いました。

報告 PTA 会長 河村 恵子